

第39回歴史地震研究会（高槻大会）のお知らせ（第2報）

第39回歴史地震研究会（高槻大会）のプログラムが決定いたしました。講演要旨送付、大会参加・懇親会・巡検参加申し込みの締め切りは7月31日（日）です。送付先・申込先は、3. 講演要旨について、7. 研究会・懇親会・巡検参加申し込み先をご参照ください。

1. 場所

関西大学高槻ミューズキャンパス（※高槻キャンパスではありません）

高槻市白梅町7-1（JR高槻駅から徒歩7分）

<https://www.kansai-u.ac.jp/ja/about/campus/#takatsukimuse>

2. 日程および参加費

2022年9月17日（土）～19日（月・祝）の3日間

17日：研究会・総会・懇親会（検討中）

18日：研究会

19日：巡検

○研究発表会は大会参加費として会員1,000円、非会員2,000円を徴収します。

○研究発表会は簡易オンライン実況中継（Zoomによる実況のみ、質疑応答なし）を検討中です。

○懇親会（会費5,000円程度）の実施を検討しています。新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえて8月10日頃に実施の可否を決定します。

○巡検の参加費は5,000円程度です（昼食・保険含）。

研究会・懇親会・巡検は7月31日（日）までに申し込みをしてください。今回はセキュリティの関係から、研究会のみ参加の方も事前に申し込みください。申込先は7. 研究会・懇親会・巡検参加申し込み先をご参照ください。

3. 講演要旨について

発表1件につきA4サイズ1ページ（厳守）、カメラレディ（そのまま印刷可能な）原稿のご用意をお願いします。歴史地震研究会ホームページからダウンロードした標準フォーマット（Wordファイル）を書き換える形で原稿を作成のうえWordファイルを電子メールで提出してください。やむを得ない場合はご相談ください。7月31日（日）必着といたします。原稿の送付先は第39回歴史地震研究会行事委員会（rekishi2022@histeq.jp）です。

要旨の標準フォーマット <http://www.histeq.jp/doc/AbstractFormat.doc>

4. 発表について

口頭発表では、各自でご用意いただいたPCを接続していただきます。発表時間は12分、質疑応答が3分です。各セッションの最後に総合討論の時間があります。なお、高槻大会ではポスター発表はなく、全発表が口頭発表です。

5. 懇親会

日時：9月17日（土）18:00～20:00（終了予定）

実施検討中です。8月10日頃に最終判断をします。

6. 巡検

行程：9:30 関西大学高槻ミュージズキャンパス出発

16:00 関西大学高槻ミュージズキャンパス解散（バス移動）

今城塚古代歴史館、今城塚古墳の地震地すべり痕跡、有馬・高槻断層の横ずれ変位痕跡、（昼食）、京都大学阿武山地震観測所

参加費：5,000円程度（昼食・保険含）

定員：40名（先着順に受付、会員及び研究発表会参加者を優先します）

参加申し込みは7月31日（日）まで。申込先は7. 研究会・懇親会・巡検参加申し込み先をご参照ください。保険加入のため、氏名・住所・生年月日・電話番号（携帯可）をお知らせください。

7. 大会参加・懇親会・巡検参加申し込み先：

Webフォームの場合：<https://forms.gle/YRVY5cmkXAUzUhmK7>

※可能な限りWebフォームでお申し込みください。

電子メールの場合：rekishi2022@histeq.jp

第39回歴史地震研究会行事委員会

林能成（委員長）、服部健太郎、木戸崇之、小松原琢、西村裕一、大邑潤三

第 39 回歴史地震研究会（高槻大会）プログラム

9月17日（土）

研究発表会（第1日） 受付9時30分～

口頭発表セッションⅠ 江戸時代より前の地震 10:00～12:00

座長：小松原琢

O-01 石橋克彦

過大評価された745年天平美濃地震—史料地震学・活断層学・地震考古学の相互依存の問題点

O-02 行谷佑一・矢田俊文

古代・中世の地震記録における日付の誤記について

O-03 楠本聡・今井健太郎・菅原大助

静岡県湖西市白須賀における1498年明応東海地震の津波痕跡

O-04 石橋克彦

明応四（1495）年「相模トラフ地震」の問題点：付・北条早雲の小田原城攻略

O-05 石橋克彦

15世紀末の江の島（相模湾北東岸）の「隆起・沈降」はトンボロの消長ではないか

O-06 服部健太郎

1596年文禄畿内地震に伴う地表変位を記した非文献史料の収集：明治時代の公図に見る有馬—高槻断層帯付近の条里制地割の横ずれ

<総合討論 30分>

<休憩 70分>

総会 13:10～14:20

<休憩 10分>

口頭発表セッションⅡ 南海トラフの地震・津波 14:30～17:10

座長：室谷智子

O-07 松岡祐也

『淡路草』記載の地震被害記述—特に慶長9年地震について—

O-08 服部健太郎

地震史料集に掲載された既刊の文献史料の原本調査：1707年宝永地震(三重県熊野市)・1854年安政南海地震(愛媛県今治市)の事例

O-09 平井敬

大沢家本願寺関係文書に記された安政東海・南海地震 その2

O-10 南怜奈・馬場俊孝

安政南海地震で発生した火災の延焼範囲推定と焼止まり地点の特定

<休憩 10分>

O-11 都司嘉宣

安政二年十月二十四日巳刻（1855—XII—3，10時）南海沖海域に発生した津波地震

O-12 今井健太郎・楠本聡・行谷佑一・中野祥房・新田康二・堀高峰

津波痕跡高分布に基づく1944年昭和東南海地震の波源断層モデル

O-13 山中佳子

南海トラフ巨大地震解明に向けた史料の見える化

O-14 久永哲也・内田篤貴・北川穂乃香・佐々木哲朗・小川典芳・武村雅之・都築充雄

東海地域における南海トラフ沿いの歴史地震津波に関する現地調査結果について（その4）

<総合討論 30分>

懇親会 18：00～20：00（実施検討中）

9月18日（日）

研究発表会（第2日） 受付8時30分～

口頭発表セッションⅢ 江戸時代の火山噴火と地震 9：00～11：50

座長：行谷佑一

O-15 杉森玲子

史料からみた1640年北海道駒ヶ岳噴火

O-16 蝦名裕一

元和二年（1616）仙台地震の津波被害をめぐって

O-17 漆原惇・加納靖之・大邑潤三

高野家記録を用いた18世紀の宮城県南部の地震活動

O-18 西山昭仁・原田智也

寛延四年（1751）の京都地震における被害と対応

<休憩 10分>

O-19 水野嶺・加納靖之・榎原雅治

弘化元年5月・6月の被害地震について

O-20 松浦律子・中村操

1854年安政豊後水道の地震について

O-21 原田智也・西山昭仁・石辺岳男

「大地震見聞録」に記録された安政江戸地震における土浦での被害

O-22 原田智也・西山昭仁

安政江戸地震における佐倉城・城下の被害報告の変遷

<総合討論 40分>

<休憩 70分>

口頭発表セッションⅣ 近代の地震 13:00～15:25

座長：山中佳子

O-23 鏡味洋史・水田敏彦

宣教師 Henry B. Schwartz の 1896 年陸羽地震見聞記

O-24 小菌崇明

復興記念館に所蔵される関東大震災写真

O-25 武村雅之

地震危険度測定調査から見た帝都復興事業とその後の東京

<休憩 10分>

O-26 阪本真由美・松井敬代

まちなみにみる北但大震災

O-27 松井敬代

『躍進の城崎温泉観光圖』に描かれた町並み

O-28 水田敏彦・鏡味洋史

1930 年北伊豆地震直後の踏査報告の足跡をたどって

O-29 都築充雄

三河地震（1945）における寺院被害状況と集落別住家被害率

<総合討論 30分>

<休憩 10分>

口頭発表セッションⅤ 地震一般 15:35～17:15

座長：加納靖之

O-30 石辺岳男・松浦律子・佐竹健治

発震時刻の無作為（ランダム）性から探る有感記録の完全性

O-31 小松原琢

歴史地震研究による内陸活断層活動の復元について

O-32 榎本祐嗣・長尾年恭・山辺典昭・杉浦繁貴・近藤斎

歴史地震史料に見る水溶性天然ガス由来の火災害リスク

O-33 石瀬素子・中村亮一・原田智也・村岸純・中川茂樹・酒井真一・平田直

むかしの地震の被害のデジタルデータ化

O-34 上村勇輔・亀山真典

愛媛県内における津波の被害・浸水域・高さと 地名の関連 ～津波防災に対する地名の有効性の考察

<総合討論 25分>